【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成23年5月12日(2011.5.12)

【公開番号】特開2009-56616(P2009-56616A)
【公開日】平成21年3月19日(2009.3.19)
【年通号数】公開・登録公報2009-011
【出願番号】特願2007-223584(P2007-223584)
【国際特許分類】
Ｂ４２Ｄ　15/04　(2006.01)
Ｇ０６Ｋ　19/06　(2006.01)
Ｇ０６Ｋ　 1/12　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ４２Ｄ　15/04　Ｂ
Ｇ０６Ｋ　19/00　Ｂ
Ｇ０６Ｋ　 1/12　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成23年3月22日(2011.3.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
一方、上記搬送手段３２上では封緘体４１が順次搬送されるもので、当該封緘体４１には、窓部４２が設けられて図１に示す個片帳票体を備える帳票体１１が封入されたものである。磁気センサ３４Ａ～３４Ｆの当該磁性体マーク１３Ａ～１３Ｆに対する対応位置としては、例えば各磁性体マーク１３Ａ～１３Ｆの中心位置が搬送方向上で磁気センサ３４Ａ～３４Ｆと重なる位置としている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
続いて、図６～図９に、図１の帳票体における磁性体マークの傾きの参考説明図を示す。図６～図９は、磁性体マークに着磁させた磁力に応じて当該磁性体マークの傾斜角度をシミュレートしたものである。図６は、着磁した磁力を上記同様に４ＫＧとした場合に、搬送方向から見て検知可能範囲Ｘと検知可能範囲Ｘ’とが理想的に連続させた場合を示したもので、このときの当該着磁された磁性体マーク（磁気マーク１３Ａ）の傾斜は、角度Φ　５３°となる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
図７は、磁性体マークを、例えば２ＫＧの磁力で着磁させた場合であり、この場合の搬送方向（矢印）から見て検知可能範囲Ｘと検知可能範囲Ｘ’とを理想的に連続とさせると

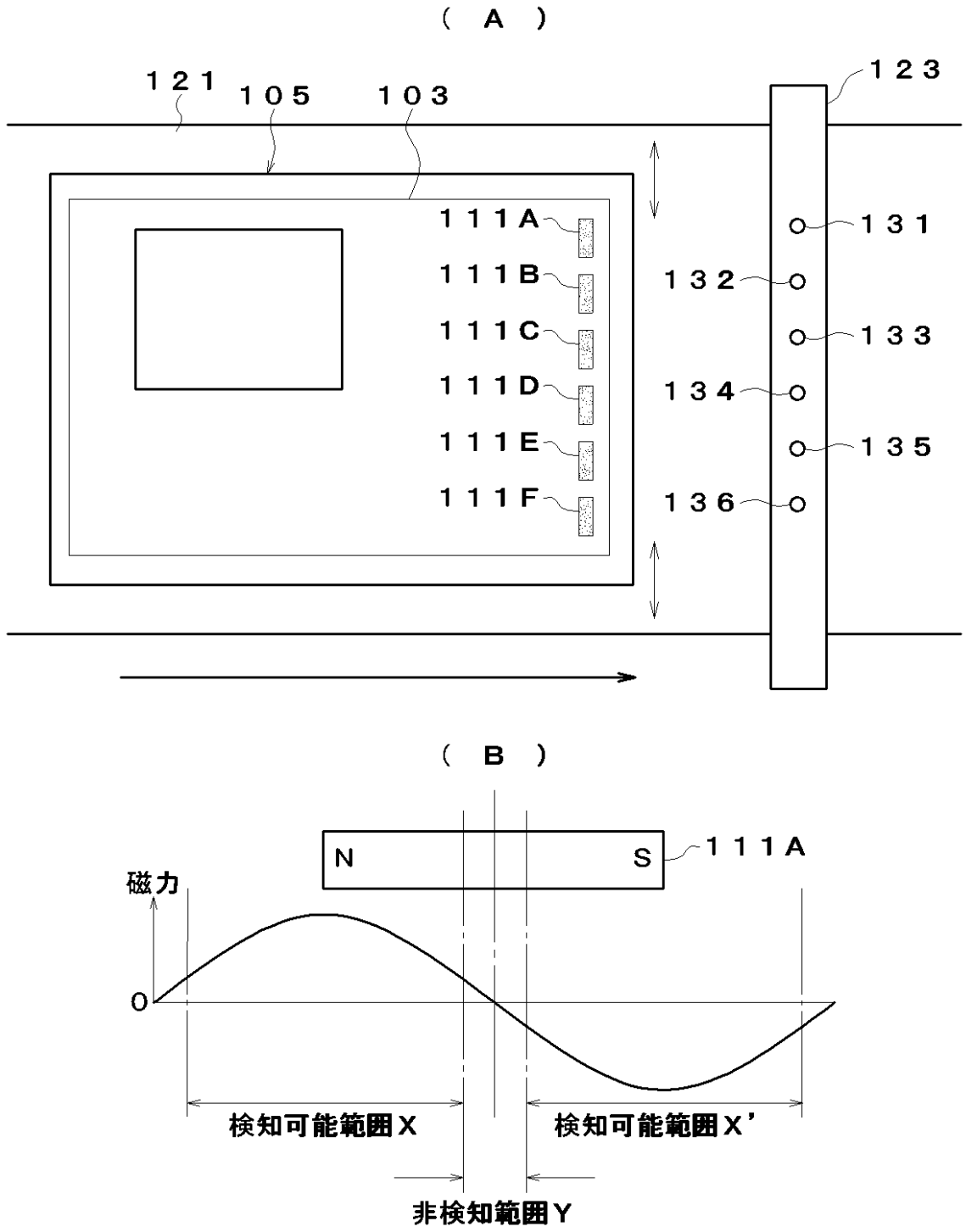
きの当該磁性体マーク（磁気マーク１３Ａ）の傾斜は、角度Φ　７０°となる。また、図８は、磁性体マークを、例えば６ＫＧの磁力で着磁させた場合であり、この場合の搬送方向（矢印）から見て検知可能範囲Ｘと検知可能範囲Ｘ’とを理想的に連続とさせるときの当該磁性体マーク（磁気マーク１３Ａ）の傾斜は、角度Φ　４２°となる。さらに、図９は、磁性体マークを、例えば８ＫＧの磁力で着磁させた場合であり、この場合の搬送方向（矢印）から見て検知可能範囲Ｘと検知可能範囲Ｘ’とを理想的に連続とさせるときの当該磁性体マーク（磁気マーク１３Ａ）の傾斜は、角度Φ　３３°となる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】
　次に、図１０に、図１の帳票体における磁性体マーク形成の他の説明図を示す。図１０において、帳票体１１に形成した上記同様の角度Φで傾斜させた磁性体マーク１３Ａ～１３Ｆに対して、同色の印刷インキで当該磁性体マーク１３Ａ～１３Ｆを覆うように形成してマーク部５１Ａ～５１Ｆとしたものである。これによって、帳票体１１全体の意匠的なバランスを設計する余地を確保することができるものである。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４８】
【図１】本発明の帳票体の一部を示した構成図である。
【図２】図１における磁性体マークに対する着磁方法の説明図である。
【図３】本発明の帳票体のマッチングを行う際のマーク検知システムの一部を示した説明図である。
【図４】図３における帳票体のマーク検知の説明図である。
【図５】図３におけるマーク検知システムの磁気センサ検知の説明図である。
【図６】図１の帳票体における磁性体マークの傾きの参考説明図（１）である。
【図７】図１の帳票体における磁性体マークの傾きの参考説明図（２）である。
【図８】図１の帳票体における磁性体マークの傾きの参考説明図（３）である。
【図９】図１の帳票体における磁性体マークの傾きの参考説明図（４）である。
【図１０】図１の帳票体における磁性体マーク形成の他の説明図である。
【図１１】図１における磁性体マークに対する他の着磁方法の説明図である。
【図１２】本発明の前提となる帳票体の一例の説明図である。
【図１３】図１２における帳票体のマーク検知の説明図である。

【手続補正６】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１３
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図１３】


（ Ａ ）
１２１
１０５
１０３
１２３
１１１Ａ
１１１Ｂ
１１１Ｃ
１１１Ｄ
１１１Ｅ
１１１Ｆ
１３１
１３２
１３３
１３４
１３５
１３６
（ Ｂ ）
Ｎ
Ｓ
１１１Ａ
磁力
０
検知可能範囲Ｘ
検知可能範囲Ｘ’
非検知範囲Ｙ